

地震に伴う水稲の「浮き苗」対策について

気象災害対策 R 5 - 4
令和 5 年 5 月 1 0 日
農林総合研究センター

I 概況

5月5日以降の断続的な地震の影響により、水稲では田植え後に「浮き苗」の発生が見られます。については、安全確保に留意し、対策に万全を期して下さい。

II 作業安全の確保

- ・事故防止の観点から、作業やほ場の見回りなどを行う際は、気象情報に十分留意して下さい。
- ・地震による強い揺れやその後の降雨により、地盤が緩み、農地などに被害が発生している場合があります。農地の点検を行う際は、細心の注意を払い作業を行って下さい。
 - (1) 用排水路や農業施設等の点検を行い、危険箇所の把握に努める。
 - (2) 農作業事故を未然に防止するため、あらかじめほ場や作業道等の周りを点検し、農作業や農業機械の走行に支障がないかを確認する。

◎農地や施設の被害発生など、異常を確認した場合は、危険箇所に近づかず、市役所・町役場や最寄りの J A、N O S A I、土地改良区への連絡をお願いします。

※ 各機関は、連携を密にさせていただきようお願いします。

III 技術対策

1 浮き苗が発生した圃場での対応

(1) 圃場全体を機械で植え直しする場合

○植え直しを行うか、行わずそのまま管理するかは、浮き苗による欠株の程度を確認したうえで、経済性や作業性を勘案し、判断する必要があります。

※ 例えば、欠株の発生率が 50% の場合、収量は約 30% 減少しますが、機械田植えによる植え直しを行うと経費がかかり、試算上、収益は変わらない。

○田植え時期の晩限は 5 月 25 日頃で、これ以降は、減収や品質低下のリスクが高まります。

◇苗箱施薬や除草剤の使用について

- ・ 植え直しを行う場合は、再度代かきを行い、苗箱施薬や除草剤散布も行って下さい。
- ・ ただし、これらの薬剤は農薬取締法等に基づき成分ごとに総使用回数が定められていることから、薬剤の選択にあたっては注意が必要です。このため、J Aや農林総合事務所に確認して下さい。
 ※ 薬剤の使用回数は、「耕起」を行うことで、カウントがリセットされます。
- ・ 特別栽培などの減農薬栽培を行う場合は、浮き苗により流された時点で「前作が終了した」とみなされ、植え直し以降の農薬の使用回数をカウントします。

◇施肥と品種選定について

- ・ 再度施肥を行う必要はありません。
- ・ 基肥一発肥料を使用している場合は、肥効の関係から施用後1週間以内に植え直しを行って下さい。
- ・ 異品種の混入を避けるため、原則として同一品種で植え直ししてください。
- ・ やむを得ず、施用後1週間以上経過する場合は、倒伏のリスクが高まるので留意下さい。
 ※ 主な倒伏軽減対策
 強めの中干し、中干しの延長、ケイ酸加里の中間追肥、倒伏軽減剤の施用

※（参考）コシヒカリの倒伏判断基準

時 期	項 目	倒 伏 判 断 基 準
出穂20～25日前	葉 身 長	主稈の上位2葉目(止葉から3葉目)の長さが42cm以上
	葉色と莖数	m ² 莖数×葉色(葉色版)=1900以上
出穂10～15日前	下 位 節 間	第5節の長さが5cm以上
	草 丈	90cm以上
出 穂 後	葉 身 長	上位3枚の葉身長の合計が105cm以上
	節間長(稈長)	第1節から第5節までの長さの合計が90cm以上
	下位節間長	第4節+第5節=15cm以上

◇植え直し後の水管理について

- ・浮き苗は、田植え直後の土壌が締まっていない状況下において、地震による揺れで発生したと考えられます。
このため、余震に備えて、植え直し後は、土壌が締まるまでの3～5日間は浅水管理（水深2～3cm）として下さい。
- ・浅水管理中に田面が露出する場合は、ゆっくりと入水し、土壌表面の除草剤の処理層を壊さないよう留意して下さい。

（2）部分的に手植えで植え直しをする場合

- ・手植えによる補植は、同一品種を使用してください。
 - ※ 連続3株まで欠株しても、周囲の株の補償作用により減収には至りません。
目安として、20株に1株程度の欠株であれば、補植は不要です。
 - ※ 除草剤散布後の場合は、除草剤の薬害により補植苗の生育抑制や枯死、足あと部分からの雑草発生の原因になることがあります。
 - ※ 植え付け時期が異なるため、ほ場内の生育が揃わない場合があります。

2 今後、田植えを行うほ場での対応

- ・余震に備えて、浮き苗を防止するため、土壌が締まるまでの田植え後3～5日間は浅水管理（水深2～3cm）として下さい。
- ・浅水管理中に田面が露出する場合は、ゆっくりと入水し、土壌表面の除草剤の処理層を壊さないよう留意して下さい。

3 再度育苗を行う場合の留意事項

- ・田植え時期の晩限は5月25日頃で、これ以降は、減収や品質低下のリスクが高まります。
- ・苗が不足し、やむを得ず育苗をやり直す場合は、右の表を参考に作業にあたって下さい。
- ・田植え作業については、上記（1）をご確認下さい。

※ 田植え予定日と適正な育苗日数の目安

	晩期田植え		(参考) 普通期田植え
	浸種	4月22日	5月2日
催芽	5月1日	5月12日	4月8日
は種	5月2日	5月13日	4月9日
田植	5月20日	5月30日	5月5日
育苗期間	19日間	18日間	27日間